

こまがね

市議会だより

2026.1.20
12月定例会
No. 108



市内を訪ねて
第3弾
小町屋

撮影場所



小町屋区しめ縄づくり講習会の様子

12月の朝、コールドムーン（満月）が中央アルプスに静かに沈む。市庁舎付近から議員がとらえた、年に一度の息をのむ幻想的な瞬間です。本年も、皆さまにとって良い一年となりますように。

福澤美香
広報広聴委員



P6～P12
13人が登壇!
一般質問

議会広報モニター 議場スピーチ	… P2～3
委員会審査報告	… P4
議案等審議結果	… P5
報告	… P13～15
議会広報モニター募集	… P16



市民の声をまちづくりへ

議会広報モニター

議場スピーチ



提案いただいた内容

都市
計画

駒ヶ根市都市計画について
宮入さん

（）発表を終えて一言

議場の演壇で発表するので、最初はどうしたらいいかと思ったが、原稿を何度も見直して臨んだのである程度落ち着いて順番どおりに話すことができたかなと思っています。

発表内容は、以前から感じていた思いをまとめたもので、ぜひ議会の中で議論を深めてもらいたい。

子ども

子どもの声が届くまちづくり
子どもの声を聞くことができる
社会へ
唐澤さん

（）発表を終えて一言

自分が日頃感じている思いや伝えたいことをこの場で発表することができ、また、市長、副市長が傍聴されている中で直接伝えることができたことはとてもいい経験になりました。

他の発表者のお話を聞いて、それぞれの熱量や思いを聞くと、熱く感じるものがあったので、こういう機会は続けてほしいと思いました。

議会広報モニター会議を開催しました



議場スピーチに先立ち、10月25日、議会広報モニターの皆さんにお集まりいただき、市議会だより、議会活動、市政をテーマに意見交換をしました。モニター2年目の皆さんから、さまざまなお意見、提案をいただきました。詳細はホームページをご覧ください。



12月6日、日頃から駒ヶ根市議会だよりを通じてご意見をお寄せいただいている議会広報モニターの皆さんから、駒ヶ根市のまちづくりに関する提案を議場で発表していくだく「議場スピーチ」を初めて開催しました。

駒ヶ根市議会では、開かれた議会を目指し、さまざまな取り組みを進めてきていますが、令和7年3月に実施した駒ヶ根市議会基本条例の評価・検証において、市民の多様な意見を反映する仕組みが十分でないという課題が明らかになりました。

そこで、市民の皆さんに議会で直接発言いただく機会を設け、議会への関心を高めるとともに、より身近で開かれた議会を目指して実施したものです。

今回4名の方から提案いただいたテーマをご紹介します。

内容の詳細はホームページをご覧ください。

提案について、今後、議会で調査・研究・検討を行い、必要に応じて市への提言につなげていきます。

議場スピーチの発表内容はこちらから →



居場所

若年障がい者の“居場所がない”
という構造的課題について

柳澤さん

④ 発表を終えて一言

普段は傍聴席で議会を聞いていますが、今日は発言者として立ち、景色の違いに戸惑いました。緊張で頭が真っ白になり、用意していたカンペも半分ほどしか見られませんでした。それでも、市議の皆さんのがうなずきながら聞いてくださる様子が伝わり、必死に話すことができました。発言後には、「思いはきちんと伝わった」という手応えを感じました。

暮らし

駒ヶ根市の未来を支える“自給力”
と“暮らしの足”的再設計

井上さん

④ 発表を終えて一言

5分間の発表で、「何を話そうか、500万個ある思いの中からどれを選ぼうか」と悩みました。最初は不安でしたが、皆さんがやわらかい雰囲気で迎えてくださり、落ち着いて発表ができました。またこのような機会があれば、周りにも広めて、多くの人が参加できるようになれば楽しいのではと思います。

議会広報モニターさんへインタビュー

議員も市民も議会だよりを発行すべきと思っているのかどうか。

一般質問などYouTubeで見ることができるので、見ようと思う人は見られるようになっている。それ以外に、議会だよりをもう少し親しみやすくするために、それぞれどんな議員なのかを主に出していくってもいいのではないか。



小澤さん

あなたも議会広報モニターとして
活動してみませんか？

令和8年4月から2年間、議会広報モニターとして活動いただける方を募集しています。詳細は、議会だより裏表紙(P16)の内容をご確認ください。皆さまのご応募をお待ちしております。

委員会審査報告

12月定例会では、12月15日・16日・19日に常任委員会を開催し、条例改正案や一般会計補正予算案などの議案を審査しました。

審査した議案の主な内容と質疑内容をお知らせします。(議決結果は、P5の議案等審議結果をご覧ください。)

提出された議案は、本会議で直ちに採決する場合もありますが、より詳しく審査するため、所管の常任委員会に付託し、委員会として賛成・反対を決定します。



総務産業委員会

委員長：小原晃一 副委員長：中山万宝

委員：小原茂幸、竹村聰、押田慶一、小林敏夫、福澤美香

①農業生産力の強化・効率化を推進する団体等の取り組みを支援します

市内の団体などへ「ラジコン草刈り機」と「ラジコン小型農薬散布機」を、県の補助金を活用して支援します。



問 機械を導入するには、革新的な取り組みが条件とのことだが、どのような内容か。

答 草刈機はスマート農業としての取り組み、小型散布機はマーケットニーズ対応の取り組みを行うもの。

問 申請の件数はどれくらいあったか。

答 当市では、6月の補正において3件の申請に対して2件が採択、今回の追加募集では、2件の申請に対して2件とも採択となっている。

<議案第83号 令和7年度駒ヶ根市一般会計補正予算(第9号)285万円>

②「つれてってカード」の新システム端末を購入します

つれてってカードシステムの切り替えに伴い、行政ポイント(えがおポイント)の付与等に使う端末を購入します。



問 システムの更新で具体的な変化があるのか。

答 スマートフォン一つで決済やポイント付与、ポイント管理までを一元的に行えるようになり、若年層会員の普及拡大が期待される。

問 今のカードは使えなくなるのか。また、貯めたポイントはどうなるのか。

答 現行カードは使えなくなるが、ポイントは引き継がれる。
つれてってカード協同組合が主体となり進めていく。

<議案第83号 令和7年度駒ヶ根市一般会計補正予算(第9号)120万円>

教育民生建設委員会

委員長：今堀雷三 副委員長：藤井邦彦

委員：宮下稔、竹上陽子、池田幸代、竹村知子、中島和彦

①帯状疱疹ワクチン予防接種に係る委託料の増額

高齢者を対象に実施している定期接種の一つである帯状疱疹ワクチン接種について、接種率が当初の見込みを上回って推移していることから、医療機関へのワクチン代など接種に係る委託料を増額します。



問 带状疱疹ワクチンの予防接種人数が大きくなっている要因は何か。
また、周知方法などに工夫はあったのか。

答 带状疱疹は50代から発症率が高まり、80歳までに約3人に1人がかかると言われている。発症後、治癒しても神経痛が強く残る場合があるため、周囲の話を通じて、情報が広まり、予防接種の必要性が認識されたことなどが要因と考えている。

<議案第83号 令和7年度駒ヶ根市一般会計補正予算(第9号)235万円>

②こども誰でも通園制度の実施に向け条例を制定します

乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)は、令和8年4月から、保護者の就労要件を問わず、生後6ヶ月から3歳未満の子どもが月一定時間、保育所などを利用できる制度として全国で実施されます。これに伴い、本市における設備および運営の基準を定めるため、条例を制定するものです。



問 配置する職員の想定は。

答 保育士で予定している。

問 実施場所はどこか。

答 経塚保育園に併設する子育て支援センターでの実施を考えている。

<議案第82号 駒ヶ根市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例>

12月開催の定例会において審議した結果を報告します。

令和7年 第6回 12月定例会

- 全会一致：採決による議会の意思決定のとき、出席議員全員の意思が一致すること

● 契約、条例の一部改正など

議案等番号	件名	付託委員会	賛否の多少	採決結果
議案第79号	駒ヶ根市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例	総務産業	全会一致	原案可決
議案第80号	駒ヶ根市障がい者就労支援センター条例の一部を改正する条例	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第81号	駒ヶ根市産地形成促進施設条例の一部を改正する条例	総務産業	全会一致	原案可決
議案第82号	駒ヶ根市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例 概要及び主な審査内容は、「委員会審査報告」4ページをご覧ください。	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第84号	物損事故に係る損害賠償の額を定めることについて	総務産業	全会一致	原案可決
議案第85号	自動車物損事故に係る損害賠償の額を定めることについて	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第86号	公の施設の指定管理者の指定について	総務産業 (教育民生建設)	全会一致	原案可決
議案第87号	公の施設の指定管理者の指定期間の変更について	総務産業	全会一致	原案可決
議案第88号	新宮川岸地区竜東振興土地改良基盤整備事業 圃場整備工事請負契約の締結について	総務産業	全会一致	原案可決
議案第89号	文化センター改修事業 駒ヶ根総合文化センター空調設備等改修工事変更請負契約の締結について	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第90号	駒ヶ根市議会議員の議員報酬等に関する条例及び駒ヶ根市特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例	総務産業	全会一致	原案可決
議案第91号	駒ヶ根市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	総務産業	全会一致	原案可決

● 補正予算

年度途中の新たな事業などへの対応のため、必要な予算を追加・変更などを行うもので、議会の議決が必要 () は関連審査を行った委員会

議案等番号	件名	付託委員会	賛否の多少	採決結果
議案第83号	令和7年度駒ヶ根市一般会計補正予算(第9号) 概要及び主な審査内容は、「委員会審査報告」4ページをご覧ください。	総務産業 (教育民生建設)	全会一致	原案可決
	ふるさと寄附金の増額や、今季の降雪に備えた除雪等に要する費用、学校給食物価高騰対策事業費の追加などの補正を行うもの			
議案第92号	令和7年度駒ヶ根市一般会計補正予算(第10号) 人事院勧告に伴う給与等の改定、人員構成の変動等による人件費の補正を行うもの	総務産業 (教育民生建設)	全会一致	原案可決
議案第93号	令和7年度駒ヶ根市介護保険特別会計補正予算(第2号)	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第94号	令和7年度駒ヶ根市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第95号	令和7年度駒ヶ根市水道事業会計補正予算(第1号)	教育民生建設	全会一致	原案可決
議案第96号	令和7年度駒ヶ根市農業集落排水事業会計補正予算(第1号)	教育民生建設	全会一致	原案可決

● 議員からの発議 議員が議案を議会に提出し、審議を求めるこ

議案等番号	件名	賛否の多少	採決結果
議 第7号	軽油引取税の課税免除措置の継続を求める意見書	全会一致	原案可決
軽油引取税の課税免除措置について、令和9年度以降も継続することを求めるもの			
議 第8号	診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等の報酬・処遇改善等を求める意見書	全会一致	原案可決
2026年度診療報酬改定に合わせ、介護報酬・障害福祉サービス等報酬を前倒し改定し、物価高騰や人員不足に対応した報酬・処遇改善を求めるもの			

● 請願・陳情(全会一致で採択されたもの)

議案等番号	件名	採決結果
請願第4号	免税軽油制度の継続を求める請願書 【総務産業委員会での審査結果：採択】	議第7号採択によりみなし採択
陳情第5号	診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引き上げを求める陳情書 【教育民生建設委員会での審査結果：趣旨採択】	趣旨採択

市政を問う

一般質問とは、議員が市政について自由に質問することです。
各議員のQRコードからYouTubeの録画配信をご覧いただくことができます。

今回、13人の
議員が一般質問を
行いました!



①QRコードをカメラやアプリなどで読み取ります。(お使いの機種によって操作方法が異なりますのでご注意ください。)



問 市議会は9月下旬に商工会議所会員と意見交換会を開催した。その際に製造業の方々から、先進的な産業の企業誘致を要望された。産業構造が劇的に変化する時代に即応した新産業の育成や企業誘致は、持続可能な地域経済のために必要不可欠である。また、請負活動には国や県、民間団体などの連携も必要だ。企業誘致活動の現状と課題は、

市 当市はこれまでに7カ所の工業団地を整備し、30年間における新産業の育成や企業誘致は、

その他の問題



問 ① 質問後の感想
人手不足や担い手不足にはITターンなどが要になる。そのためには希望する仕事が必要なだ。地元企業の成長と企業誘致は不可欠に思う。交通利便性の良い西山の開発など積極的に検討してほしいと思う。

答 ② 質問の内容のイラスト回答
若者の社会参画をより促進する考えは



②画面に表示されたURLを選択すると議員の一般質問ページ(YouTubeページ)が表示され動画が始まります。



①一般質問終了後の感想を掲載しています。
②その他に行った質問を掲載しています。



小原 晃一 議員

問 ハウス栽培へ天井フィルム更新費補助は



質問動画はこちらから

答 補助設計や時期設定に慎重な検討を要す

問 「2025年農林業センサス結果の概要」は、基幹的農業従事者が約102万人で、10年前から73万人減少し、過去最大と報道。燃料や資材価格は約2割以上高騰し、現場環境は厳しく、離農や廃業が加速しているとのこと。市内の施設園芸農家数、面積別ハウス数、使用フィルムなどについて現状把握の内容は。

産業部長 個人・法人合わせて47経営体で、ハウスの総面積は約12万m²。野菜生産が25経営体で、約7万m²。花卉生産が22経営体で、約5万m²。棟数や構造の詳細は把握できていない。主な形態は、ガラス・ビニール・ポリエチレンハウス

の3種類が多く見られる。

問 認定農業者との意見交換会やこまがね農業収穫祭の折、イチゴ・キュウリ・アスパラ・花卉栽培農家から、天井フィルム更新時の費用助成の要望があり、費用補助の検討は。

産業部長 要望は、施設を維持していくための経費に補助がないという現状に基づくもので、内容は理解している。今後農業者のご意見を伺い、地域農業の持続的な発展に資する支援の在り方やその可能性について調査、検討を進めたい。

その他の質問

- ▶分譲地の緑地や公園の維持管理
- ▶中アのライチョウのブランド化

質問後の感想

「ライチョウ市民会議」の検討を希望。市民の関心の向上のために。環境省や信大、大町山岳博物館など多くの関係機関の協力の下、復活事業で中アの雷鳥が350羽に増加。今後、みんなで勉強や講演会をしたい。



約5年で更新 アスパラハウスの天井



中島 和彦 議員

問 「重点支援地方交付金」の拡充について



答 関係団体とともに必要な対策を検討する

質問動画は[こちらから](#)

問 10月の上伊那地区企業の業況判断指数が全業種マイナスで低調であった。物価高の影響は業種・業態などにより違いはあるが、市内事業者の事業環境は悪化しているとの分析となっている。現在の市の経済動向をどのように判断しているのか。また、個人消費の動向は。

市長 市は、事業者の状況や経済動向などを把握するため、駒ヶ根商工会議所とともに年2回、景気動向調査を行っている。どの業種も物価高などの影響を受け利益を確保しにくい状況が続き、非常に厳しい状況と認識をしている。市内経済の持ち直しには、まだ時間がかかると考え

る。インフレなどにより、個人消費は停滞をしている。

問 物価高対策として「重点支援地方交付金」が拡充された。政府は支援策の一例として「お米券」や「電子クーポン」などを提示しており、判断は各自治体に委ねられている。市の考えは。

市長 国、県の動向を注視しつつ、市内の景気動向調査の結果や関係団体の要望なども取り入れ、具体策を検討する。市民の皆さまの生活支援、事業者支援を行う。

その他の質問

▶台中市親善訪問の目的と成果は

質問後の感想

物価高の支援金が国会で審議通過し、市でも数々の支援が図られる見通しです。短期的なものもありますが、さまざまな困難から立ち直る力、持続可能なレジリエンスへの一助になればと思います。



竹上 陽子 議員

問 不登校の子の公的な居場所確保について



答 中間教室を充実させ、適切な支援を行う

質問動画は[こちらから](#)

問 「みなみい～ね」は水・金曜日に未来応援事業を活用し、保護者が自ら運営。県の認証制度を受けるには、1日4時間の開設が必要。あと1時間の延長ができないか。

教育長 みなみ子ども交流センターは、放課後や長期休業中の居場所としての施設。貸し出し可能な時間に制約があることをご理解いただき利用されている。延長は難しい。

問 子どもの「第三の居場所」として、駅前閉店後のスーパー跡地、下平幼稚園の跡地も視野に入れた一日いられる公的な居場所づくりをするために、当事者である親の会も交えた検討を進めていく考えは。

教育長 中間教室を充実させながら適切な支援を行っていく。市外の施設を選ぶことも、大切な自己表現の一つと考える。子どもにとってより良い場所になるよう皆さんに話を聞き、進めていく。

問 赤穂小学校、赤穂南小学校では、保護者同伴で修学旅行参加が実現された。他の小中学校の現状は。

教育長 赤穂東小学校、赤穂中学校でも保護者同行など、柔軟に対応している。

その他の質問

▶市立保育園での主食(米飯)持参から完全給食へ

▶生活保護世帯などへ暖房費助成を

質問後の感想

「みなみい～ね」には、時間制限などある中、多くの子や親が安心の居場所、保護者の情報交換の場になっている。市として、公的な居場所を設置していくことが求められる。





竹村 知子 議員

問 若者の居場所のユースセンター設置は

質問動画は[こちらから](#)

答 ウミガメプロジェクトを発展させ推進

問 中高生など若者が自由に集い、交流し、学び、家でも学校でもない第三の居場所として大きな役割を果たしている「ユースセンター」の設置が全国各地で進んでいる。中高生などの居場所や学習スペースなどの視点のユースセンターの必要性をどう捉えているか。

市長 家庭や学校以外の場で、若者が社会や地域と関わりを持ち、自己肯定感を高めたり学びを深めたりするための環境が必要であるという考えは多くの自治体でも共有されており、意義があるものと認識している。ウミガメプロジェクトをさらに発展拡大させ、若者の支援をより一層

推進していきたい。

問 県の地域発元気づくり支援金などを活用し、ユースセンターの設置促進に取り組むべきと考える見解は。

市長 ウミガメプロジェクトのさらなる発展も踏まえ、対象事業条件に合致する場合は積極的に活用していく。

その他の質問

- ▶ 子どもを大切にする教育行政の今後の方向性について
- ▶ 病気の外見変化をサポートするアピアランスケアの対象拡充は
- ▶ 子どもたちへのヘアドネーション啓発について

質問後の感想

若者の居場所について、高校生主導で居心地の良いスペースづくりが行われている点は評価できる。安心して挑戦や交流が続けられるようなユースセンターとしての仕組みの整備を願い、注視していく。



茅野市のCHUKO randoチノチノ



押田 慶一 議員

問 アルパを核に市街地活性化の取り組みは

質問動画は[こちらから](#)

答 地元の商店街など多くの関係者と連携

問 市民交流活性化センター「アルパ」の1階だけでなく、ビル全体での有効活用やまちなか活性化を進める上でアルパを行なう考えは。

市長 1階の空きスペースは、例えばこれまでまちなかになかった観光客向けの休憩スペースも考えられ、2階のフリースペースの充実を図り、学習室や若者の居場所として、1階と2階を一体的に活用することも一つの案として考えられる。

ただ、アルパだけではなく地元の商店街など多くの関係者の皆さんと連携していくことが重要である。

問 行政をはじめ、まちづくりに関心のある各種団体の集合体である

まちなかエリアプラットフォームの活用はどのように考えているか。

市長 このエリアプラットフォームを始め、幅広い世代や関係する団体の皆さんなどから、広く意見をいただくことを検討している。

問 まちなか活性化を進める上で、また、今後、観光客の増加を見込んで駐車場を増設する考えは。

市長 駅前駐車場は築26年を経過し、令和8年3～5月にかけ床面や外壁などの改修工事を予定している。現時点では増設する予定はない。

その他の質問

- ▶ 成年後見制度の環境と制度の拡充を図る取り組みについて

質問後の感想

アルパの1階を何とかするだけでなく、市の将来像である「誰もが自由闊達にいきいきと活躍する広場のようなまち」を目指していくという熱い思いが伝わってこなかったのが残念でした。



多くの人が訪れるような場所に



宮下 稔 議員

問 JICA訓練所のあるまち、英語教育特区は



質問動画はこちらから

答 さらにJICAを生かす取り組みを考えたい

問 市が掲げる「広場のようなまち」について、市長は「今後のまちづくりというのは、いかに多様なメニューを柔軟に備えることができるかだ」と述べてきた。そこで、地域産業活性化とユニークで魅力あるまちづくりについて伺う。

その一つとして、国際化、グローバル化は止められない状況にあるので、JICA訓練所のあるまちとして強烈な特色づくりを進めたらどうか。他にない魅力発信になるのではなく、私は思ってきた。英語教育の充実、英語特区的なまちづくりに取り組まないか。

教育長 現在、訓練生が学校訪問

などを行って交流をしている。さらにさまざまな方法で交流する機会を増やし、児童生徒が異国文化を直接学ぶ機会をつくり、コミュニケーション能力や発信する力の向上を図る取り組みを進めていきたい。

英語教育特区は、各地で取り組みが進められているところである。市でもJICAのメリットを生かせるような取り組みを考えていきたい。

その他の質問

▶ 地域産業の活性化について（まちなか未来ビジョンの進捗、企業誘致策、農業振興と雨水排水対策、U-Iターン促進策ほか）

▶ 安心の医療環境の整備は

質問後の感想

市政に多様なメニューを備える。市民を支える総合行政を担っているのだから言うまでもない。それより課題が顕在化し対処する受け身でなく先に仕掛ける能動性がほしい。英語教育環境の充実を望む。



市内小学校の英語授業(2019.6)



今堀 雷三 議員

問 公園のトイレが不衛生との声に関しては



質問動画はこちらから

答 清掃回数の見直しを検討する

問 駒ヶ根市こども計画のアンケート結果では、雨天時に子どもが安全に遊べる場所がないとの回答が非常に多いが市の見解は。

市長 雨天時や冬場の遊び場については市としても必要性を認識している。現在、計画に基づき施設の統廃合や適正配置を進めている。今後、公共施設の再編の中で遊休施設が生じることが予想されるので、地域の皆さんのご意見を伺い、施設が利活用できるよう整備を検討する。

問 次に多かったのは公園のトイレが不衛生であった。掃除のチェックシートを導入し「掃除の見える化」はできているのにもったいない。誰で

も掃除ができるよう掃除用具を設置してはどうか。また、オムツ替えの配慮がないという結果だ。

市長 市が管理しているトイレは職員、地元の皆さんのアダプト制度管理者、清掃業者で週1回以上清掃を実施。誰でも使える掃除用具はいたずらの恐れがある。利用頻度の高いトイレを中心に清掃回数の見直しを検討する。現在、オムツ替えシートは公園のトイレ23カ所の内14カ所に設置しており、概ね充足していると考えている。

その他の質問

▶ 大徳原地区の産廃事案への対応は
▶ 中学生を対象にしたこども議会は

質問後の感想

トイレは市の顔です。トイレがきれいだとみんな笑顔になります。駒ヶ根市は観光地でもありますので「日本一きれいな公共のトイレがあるまち」でまちおこしをやりませんか？私はできると思います。



トイレがきれいだとうれしいなあ～



小林 敏夫 議員

問 猿友会員の資格と位置づけ、災害補償は



答 地方公務員法による特別職職員に準じる

質問動画はこちらから

問 今年は、山にどんぐりなどの動物の餌が少ないためにクマの出没が全国各地で報道されていた。当駒ヶ根市では、猿友会員の皆さんとの対応によりおかげさまで大事になっていない。身の危険もある猿友会員の資格と位置づけはどうなっているか。また、会員の入会時とその後の特典はあるか。さらに、登山者などが被害にあった場合の補償はあるか。

市長 農作物の被害防止のための有害鳥獣対策については、駒ヶ根市鳥獣被害対策実施隊設置条例に基づき対応している。この条例で駒ヶ根市鳥獣被害対策実施隊員は、駒ヶ根市猿友会員とされており、地方公

務員法第3条第3項に規定する特別職の職員で非常勤とすると規定されている。隊員が、業務中に負傷した場合は、非常勤職員の公務災害補償等に関する条例が適応され、療養費などが支給される。また、毎年県への狩猟者登録の際に、対策鳥獣捕獲員である証明書の添付により県の狩猟税が免除される。

登山者などが被害にあった際の補償はない。

質問後の感想

この質問時にも紹介したが、駒ヶ根市猿友会長より、スキー場の西より空木岳への登山道があり、その周辺はクマの生息場所にもなっているので注意をと再三言われたのが気になっている。



サルの捕獲檻

その他の質問

▶防火貯水槽の管理について



竹村 誉 議員

問 子どもの権利条例で規範を示すべき



答 条例策定は必要性を感じない

質問動画はこちらから

問 「アルプスに響くこまがね子育て5つのみちしるべ」は、大人目線の行動指針になっているのではない、子ども目線として適當なのかどうかと懸念する。新教育長の受け止めは。

教育長 こども基本法や児童の権利に関する条約の理念に沿って策定されており、子ども達の成長や発達をサポートしていくための指針として位置づけている。

問 駒ヶ根市の子どもの権利を保障し、その行使を実行性あるものとし履行していくとしたとき、現行の「こども計画」だけでなく、「子どもの権利条例」化で規範を示すべきで

はないか。教育長の見解は。

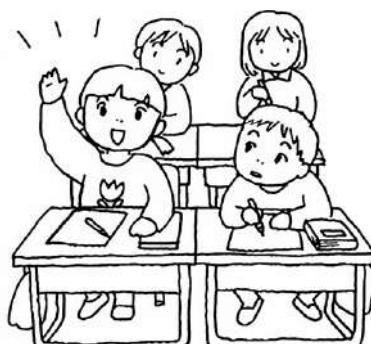
教育長 子どもの権利は、こども基本法や児童の権利に関する条約に示されている内容が指針と考えている。権利の行使に関しては、子どもの意見を尊重する環境をつくっていくとともにそれを大人が保障する責任を負うことと考えている。現時点では、子どもの権利条例の策定は、必要性を感じていない。

その他の質問

- ▶令和6年度の不用額・翌年度繰越額増大の原因と対策は
- ▶全国一律学校給食費無償化の当市の対応は
- ▶獣害対策とクマ出没対策の考えは

質問後の感想

「アルプスに響くこまがね子育て5つのみちしるべ」は、子ども基本法以前に策定されており、基本法の理念や子ども主体の配慮が感じられない社会実態を反映していない古い行動指針と言える。



子どもの権利保障し健やかな成長を



藤井 邦彦 議員

問 高速バス停を駅前に移設する考えは



質問動画はこちから

答 関係者と慎重に協議する

問 駒ヶ根駅前広場は令和元年度に整備されたものの、高速バスターミナルは駅から離れた場所にあり、観光客には乗り継ぎが分かりにくく、夜間の安全性や利便性にも課題がある。地域公共交通計画などでも駅前の結節性の強化が示されていることから、高速バス停を運行事業者と協議し駅前に移設する考えは。

市長 バスターミナル移転は、運行事業者の負担が大きいことや商工会館の利用契約など、さまざまな外的要因が影響するため、引き続き、関係者の皆さんと慎重に協議する。

問 アルパを、高速バスの待合所や観光案内所、子どもの居場所、中

高生の学習スペース、コワーキングスペース、きっずらんどと連携した親子の室内フリースペース、ハローワークと連携した移住相談窓口、チャレンジショップ、コンビニなど、多様な人が集う多機能拠点としてはどうか。従来型の発想から脱却し、市が主体となってアルパのコンセプトを再定義する考えは。

市長 幅広い世代や関係団体の意見を聴き、1・2階を合わせて考えるなどさまざまな検討をしていく。

その他の質問

- ▶ 教職員住宅の転用・整理の方向性
- ▶ 中核観光拠点整備の具体化と駒ヶ根ファームスの修繕判断について

質問後の感想

駒ヶ根駅前や市街地のにぎわいを取り戻すには、アルバを今後どう活用するかが鍵となります。アルバを商業テナントで埋めるという従来型の発想から脱却し、未来志向の駅前再生に挑戦すべき時です。



市民交流活性化センター「アルバ」



池田 幸代 議員

問 新教育長は率先して現場の声を聞くべき



質問動画はこちから

答 教育委員会としてチームで対応したい

問 不登校の親の会から、教育長との懇談の申し出があったが実現されていない。他団体とのバランスやチームで対応する考え方もあるようだが、市民の声を聞いてはどうか。

教育長 日常的にさまざまな機会をとらえて聞くことが大事だと考える。子ども課組織で聞きたい。

問 伊那市では新教育長就任後に本会議で教育方針を述べた。子ども施策は駒ヶ根市の主要施策だ。いずれ本会議で述べる予定はあるか。

教育長 予定はない。

問 音や光に敏感だったり、化学物質過敏症の子どもたちが学校に行けなくなっている可能性がある。

健康調査の予定は。

教育長 健康調査は実施していないが、個別に相談があった場合は対応したい。

問 10月から児童福祉法改正で保育所などの職員による虐待の通報義務が明確化された。それを受けた本市での取り組みは。

教育長 10月中に公立保育園全園に子ども課職員が出向き、職員向け研修会を実施した。保護者向けには園だよりなどで広報する。

その他の質問

- ▶ 地域公共交通の方向性は
- ▶ 地域おこし協力隊のサポートは
- ▶ 地域福祉の充実に向けて

質問後の感想

自分に身近で関心のあるテーマには多くの市民の方々の傍聴をいただく。現場に足を運ぶ、当事者の気持ちの尊重や周囲の関係者へのリスペクト、共感力が必要なのだと実感する。



子どもの成長が伝わってくる居場所



小原 茂幸 議員

問 企業誘致活動の現状と課題は



答 30年で30社立地。新たな産業用地が不足

質問動画はこちらから

問 市議会は9月下旬に商工会議所会員と意見交換会を開催した。その際に製造業の方々から、先進的な産業の企業誘致を要望された。産業構造が劇的に変化する中、時代に即した新産業の育成や企業誘致は、持続可能な地域経営のために必要不可欠である。また、誘致活動には国や県、民間団体などとの連携も必要だ。企業誘致活動の現状と課題は。

市長 当市はこれまでに7カ所の工業団地を整備し、30年間におよそ30社に立地をしていただいた。

県外企業へのアプローチには県の担当部局や東京事務所などとの連携や、日本立地センターなど関係

機関と情報交換を行っている。

課題としては、工業団地で残されたのは1区画だけとなり、新たな工業用地の確保がある。また、企業誘致の業務は多岐にわたり、土地造成や誘致活動は、行政と民間企業などとの役割を分担して進める体制が必要だ。今年度は官民連携で取り組む先進自治体などを視察し、具体的な手法や効果、課題などを検討し、次年度は推進体制を整え、新たな産業用地確保などを検討していく。

その他の質問

- ▶ 小学校の今後のクラス編成は
- ▶ 若者の社会参画をより促進する考えは

質問後の感想

人手不足や担い手不足にはUIJターンなどが要になる。そのためには希望する仕事が必要だ。地元企業の成長と企業誘致は不可欠に思う。交通利便性の良い西山の開発など積極的に検討してほしいと思う。



下平工業団地、最後の一区画



中山 万宝 議員

問 懸案事項・災害時蟹沢地区孤立防止策は



答 計画は国交省30年間の整備目標による

質問動画はこちらから

問 上赤須区蟹沢地区は、東に吉瀬ダムの天竜川、南は中田切川、北・西は急斜面な山林を背にし、四方を山河に囲まれた河川敷に位置している。2006年7月の大暴雨による災害時、地区へ通じる唯一の市道は、吉瀬橋下50m下が天竜川水位上昇により冠水、ガードレール上部がかろうじてのぞく状態になり孤立状態となつた。こうした状況を踏まえ、①橋下50m下路面のかさ上げ ②東側堤防の延長 ③中田切川砂防工事の完成 ④吉瀬橋北口から通学路落石防止策の見解は。

建設部長 国交省の天竜川河川整備計画では、堤防整備及び急流対

策の要整備箇所に位置づけられている。計画は30年間の整備目標を示し個別箇所の整備時期は未定。質問の①②③については、併せて実施する必要があるとの見解。市としても事業推進を強く要望しており、飯島町とも連携しながら事業推進に努めていく。市道の改良は早期に同時に並行で進められるよう働きかけていく。④は、建設課職員が月1度巡回。現時点では対策が必要な状況ではない。

その他の質問

- ▶ クマ対策について
- ▶ お試しドッグランの事業評価は
- ▶ 障がい者などの福祉避難所運営は

質問後の感想

「安全は何よりも優先する」を前提に質問した。今問題がないからよいのではなく、これから起こりうるリスクに対して何ができるかを念頭に望んでもらいたいし、そうありたい。今後も継続で注視していく。



蟹沢地区から見た市道付近



行政視察報告

市政の発展や課題の解決に活かすため、委員会の活動として、先進自治体等の事例について調査・研究する行政視察を行っています。

総務産業委員会

日 程 令和7年11月17日～19日

視察先 滋賀県長浜市、福井県あわら市、石川県野々市市

視察者 小原晃一、中山万宝、小原茂幸、竹村誉、押田慶一、小林敏夫、福澤美香

長浜市地域公共交通計画について・おでかけワゴンについて

長浜市では、「地域公共交通計画」(令和6～10年度)が策定され、鉄道を公共交通の軸として、駅を起点にコミュニティバスや乗合タクシーなどが周辺地域を運行し、市民生活や地域経済の発展を支えています。高齢化により地域公共交通の重要性が高い中、利用者は減少傾向にあり、施策のあり方を検証する時期を迎え、計画の目標の達成に向けて取り組んでいます。



小原晃一
総務産業委員長

当市は、平成25年に定時定路線型「こまちゃんバス」から「こまタク」運行や割引タクシー券等助成にシフトしてから早13年が経過。令和8～12年度の新「地域公共交通計画」では、市民アンケートから、通学・買い物等交通弱者の優先支援に竜東バスや市街地循環バスの新たな運行を検討予定。今後、長浜市のように、「運営協議会で有償運送の必要性などを再協議・合意を得て運輸局に申請、審査をクリアして、市直営バスを運行する自家用有償旅客運送」を本格的に検討する時期に来ているのではないか!!



長浜市議場にて



長浜市視察の様子

教育民生建設委員会

日 程 令和7年10月23日・24日

視察先 大阪府豊中市社会福祉協議会、多世代型地域食堂ごはん処おかえり、奈良県広陵町

視察者 今堀雷三、藤井邦彦、宮下稔、竹上陽子、池田幸代、竹村知子、中島和彦

地域共生社会に向けた豊中市社会福祉協議会の取組について

豊中市社会福祉協議会では、定年後の男性を中心に、遊休地を活用した都市型農園「豊中あぐり」での農作業を通じた孤立防止や生きがいづくりを進めています。また、農作業だけではなく、地域共生ホーム「和居輪居」にて、施設入所の高齢者が一時的に住み慣れた地域に帰ってくることをはじめ、食堂や創作活動などを通じ、支援する側・される側を越えた多世代が過ごし交流する場を実現するなど、地域共生社会の推進に取り組んでいます。



今堀雷三
教育民生建設委員長

視察では、「豊中あぐり」で活動されている皆さんから直接お話を伺い、男性が積極的かつ生き生きと取り組まれている姿が印象的でした。当市では、普段から土に親しむ方も多いので、農作業に限らず、地域にある資源を生かし、公民館などの活動の中でさまざまな居場所づくりを検討する必要性を感じました。また、事業が単発・単年度で終わることなく継続できるよう、負担感やわざらわしさなどを軽減する重要性も感じました。



都市型農園「豊中あぐり」



地域共生ホーム「和居輪居」にて

「2025キャリアフェス in 駒ヶ根」に 参加しました



10月30日、駒ヶ根市内の中学校2校の1年生約280人が一堂に集まり、地域で働く大人との交流を通して、地元の企業や人、仕事について学ぶ「2025キャリアフェスin駒ヶ根」が開催されました。

駒ヶ根市議会としては初めて参加し、議会の仕組みや市議会議員の仕事、議員を志したきっかけなどをお話をしました。

質疑応答では、「駒ヶ根市の課題は何ですか?」といった質問が出るなど、生徒さんが積極的に参加する姿が印象的でした。

生徒さんから寄せられた感想の一部をご紹介します。



生徒さんからの感想

駒ヶ根市には、
簡単に解決できないような問題・課題がまだ多くあるのだ
と実感しました。これらの課題
に駒ヶ根市として先進的な取り
組みを期待しています!

どういう仕事なのか、
議員が何人いるのか、今困って
いることがよく分かりました。
少し議員の仕事に興味を
もちました。

議員全体の
1/3が女性で
すごいと思いました。
話を聞いていると、
名門の学校へ行ったり、
特殊なキャリアを
もっている人は少なくて、
親近感がわきました。

市民の願いを
決めるだけでもたくさんの段
階を踏まなくちゃいけないこ
とが大変だなと思った。これまで
はあんまり思わなかったけど、
めちゃめちゃ支えてくれていて
ありがたいと思った。

市議会議員になった きっかけは?



議員の仕事は
会議をするだけじゃなく、地
域に出向いての活動もしてい
ることを知れた。議員のやりがい
や議員になったきっかけを知れ
てよかったです。

見識を広げ、新たな政策へ 議会のおもな動き

議員研修

データに基づく市の現状と課題



10月2日、政策提言・政策立案能力の向上を目的として研修を実施しました。

講師には、一般社団法人地方公共団体政策支援機構 上席研究員の渡辺太樹氏を迎え、「データに基づく市の現状と課題」をテーマに講演いただきました。

研修では、各種データを活用して自治体の現状や課題を客観的に捉える重要性や、議会として政策提言につなげる視点について、具体的な事例を交えて理解を深めました。

当市の取り組みを紹介

行政視察の受け入れ



10月から11月にかけて、下記の4市議会が、当市の取り組みについて視察に訪れました。このうち2市議会から議会改革や主権者教育を主なテーマに視察を受け、双方の取り組みについて意見を交わすなど、当市議会にとっても学びの機会となりました。

- 大町市議会「議会改革、広報広聴委員会の取り組み」
- 島根県益田市議会「公共ライドシェア(meemo 駒ヶ根)実証実験について」
- 島根県出雲市議会「議会運営、主権者教育について」
- 松本市議会「結婚支援事業について」

友好都市との交流

静岡県磐田市議会との交流

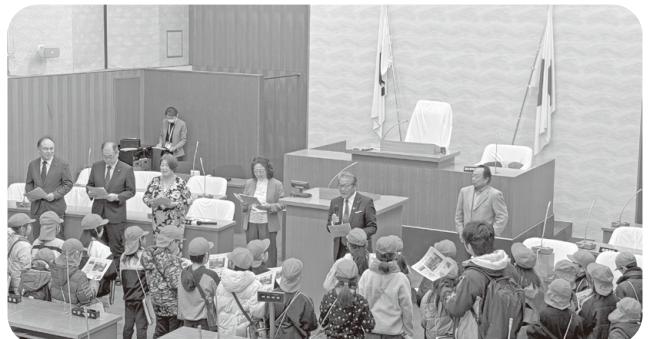


10月27日・28日、磐田市議会議員26名の皆さんのが駒ヶ根市を訪問し、駒ヶ根市議会議員との交流や現地視察を通じて、両市議会の友好親善を深めました。

光前寺の視察のほか、朗読の会「葉桜」の皆さんによる「早太郎」の演目を鑑賞しました。両市が友好都市締結をする縁となつた「早太郎伝説」に触れる機会となり、両市のつながりを改めて感じる交流となりました。

小学生市役所見学

ようこそ議場へ



12月18日、赤穂南小学校3年生の皆さんのが社会科見学として駒ヶ根市役所を訪れました。

子どもたちは最初に議場を見学。議長から市議会についての説明をした後、簡単なクイズに元気に答えていただきました。実際に、議長席や議席などに座って議場の雰囲気を体験しました。

市議会では、議会の仕組みなどを知っていただくため、議場見学を行っています。学校をはじめ、各種団体の皆さんのが参加をお待ちしています。詳しくは、議会事務局までお気軽にお問い合わせください。



令和8年度～令和9年度 議会広報モニター 募集！

読みやすく わかりやすい
議会だよりを目指して

目的	市民の皆さんからの声を「駒ヶ根市議会だより」や議会活動に生かすため
活動内容	年4回発行の「駒ヶ根市議会だより」アンケート協力、モニター会議への参加など
応募資格	駒ヶ根市在住の方
任期	令和8年4月～令和10年3月
募集予定人数	25名(公募 及び 議員推薦)
その他	・選考にあたり、地区・年齢などで調整させていただく場合があります。 ・若干の謝礼があります。



ご協力いただけの方は**3月6日(金)**までに、
申込フォーム または 電話にて、
① 住所、② 氏名、③ 年齢、④ 電話番号を
下記事務局までご連絡の上、ご応募ください。



お問い合わせ
お申込み

駒ヶ根市議会事務局
TEL:81-6191(直通) FAX:83-4348

独立行政法人 国際協力機構(JICA)より 感謝状を賜る

－JICA海外協力隊発足60周年記念式典－

11月13日、東京国際フォーラムでの記念式典に出席しました。

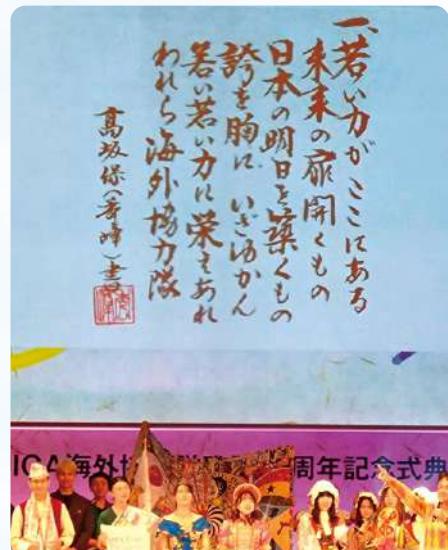
第1部では、天皇皇后両陛下のご臨席とお言葉を賜り、物故隊員追悼の黙祷から開式し、若者代表のJICA活動へ寄せるメッセージまで、感動と感激の時間でした。

第2部では、隊歌齊唱が行われ、駒ヶ根訓練所とオンラインでつなぎ、高坂保・元駒ヶ根協力隊を育てる会会長ご自筆の歌詞が投影され、会場が一体となった大合唱でした。(右の写真参照)

同日夜には、祝賀レセプションが開催され、約200名が出席しました。

最後には、二本松市と当市に感謝状が授与され、今後の協力隊への支援に身が引き締まる思いがしました。

(小原晃一)



編
集
後
記

伊那谷は日本最大の谷です。二つのアルプスから幾筋もの河川を集めて天竜川が流れ、四季を通じて風光明媚な場所です。駒ヶ根市は東京のほぼ真西に位置しながら、里からカールが見られ7月でも残雪を見る能够な場所です。私が子供の頃に父は「都会に行った子供たちが、やっぱり生まれた故郷が一番良いと言つて、帰つて来たくなるような環境

づくりをしにやあいかん。」と言っていました。移住者から、美しい景色と人柄の良さが移住の決め手になったという声をしばしばお聴きします。上善如水、上徳如谷という言葉があります。美しい環境に磨きをかけ、古い文化を引き継ぎ、時代に即した産業を興し、豊かで持続可能な谷にしたいものです。(小原茂幸)

広報広聴委員会

委員長	中島 和彦
副委員長	中山 万宝
委 員	小原 茂幸
委 員	竹村 誉
委 員	小原 晃一
委 員	竹村 知子
委 員	福澤 美香
委 員	今堀 雷三